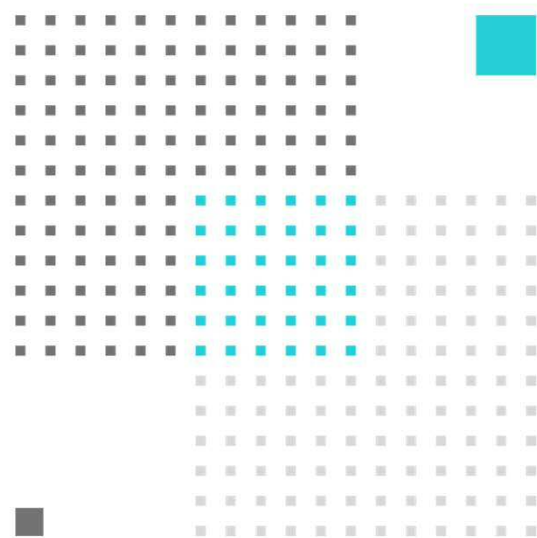


---

# インフラテクコンデータブック

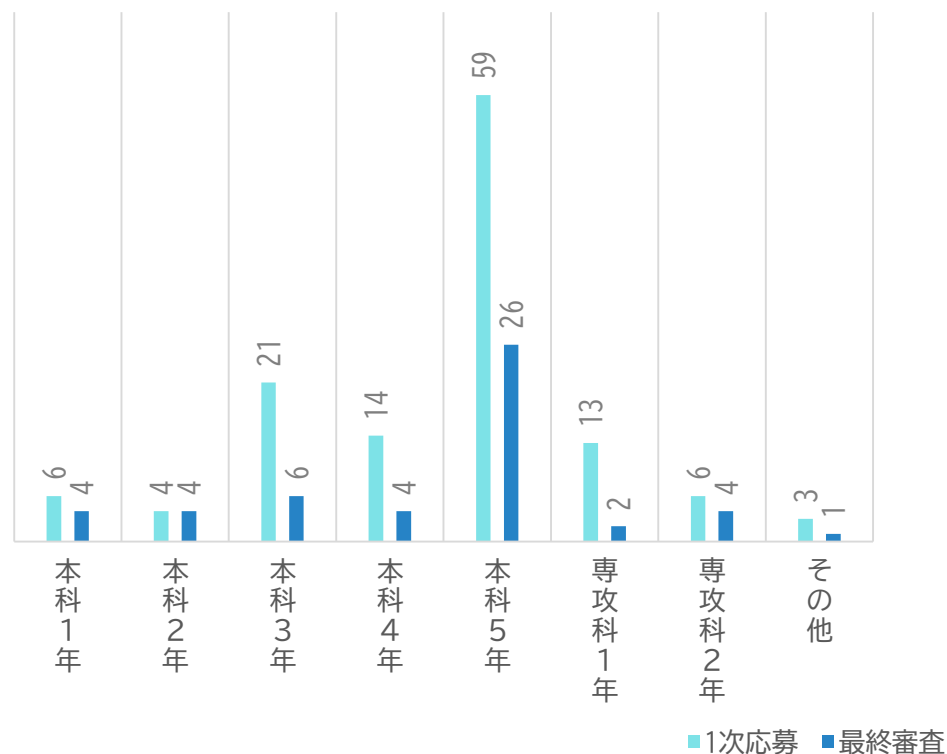
---



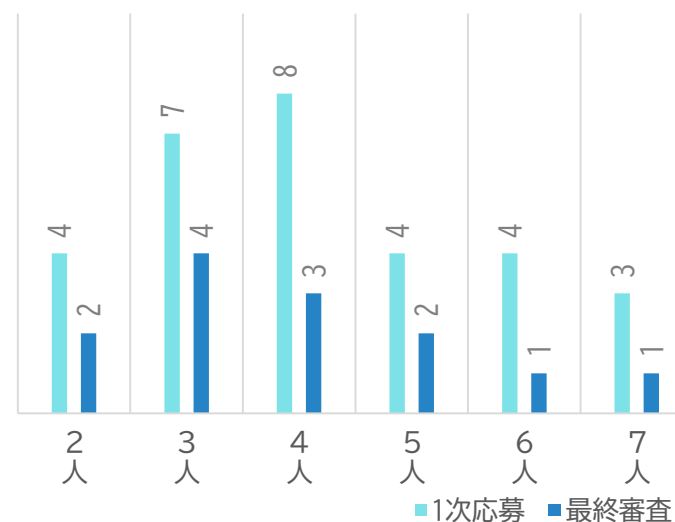
2021年版

2020年第1回の応募者は30チーム（126人）でした。  
 最終審査には13チーム（51人）が選出されています。  
 応募者の属性は本科5年生が最も多く、卒業研究をベースにしたと思われる内容が多く見られました。  
 所属学科は環境都市、環境建設など学校により名称の違いはあるものの、建設分野の学科が大多数を占め、機械、情報、電気電子などの建設系以外の学科は126人中13名でした。  
 その他は企業勤務、高専卒大学生となります。

学年別応募者



チームメンバー数



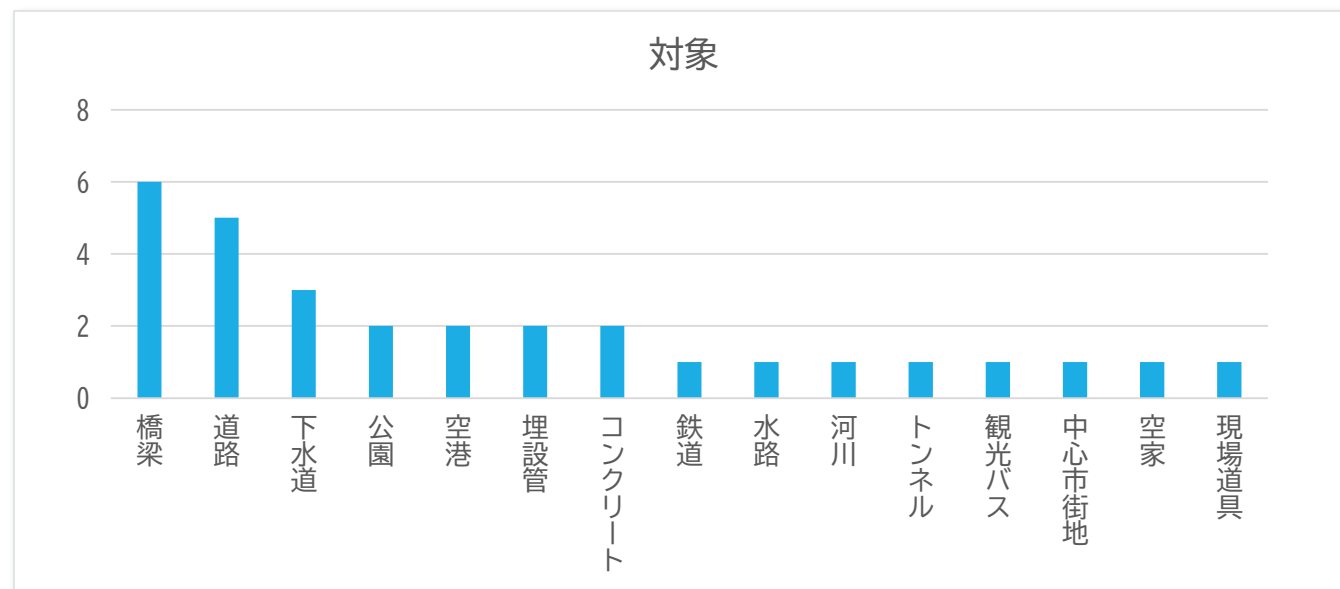
1次応募30チームのメンバー数は4人構成、3人構成の順に多く、最多メンバー数は7人でした。  
 異なる学科で構成されたチームは4チーム、そのうち2チームが最終審査に選出されています。  
 同学年で構成されたチームは30チーム中、18チームでした。

名前からの想定となりますが、1次応募者の男女比は男73%、女20%、残り7%は不明です。

## Chapter01 2020年のインフラテクコンを振り返る

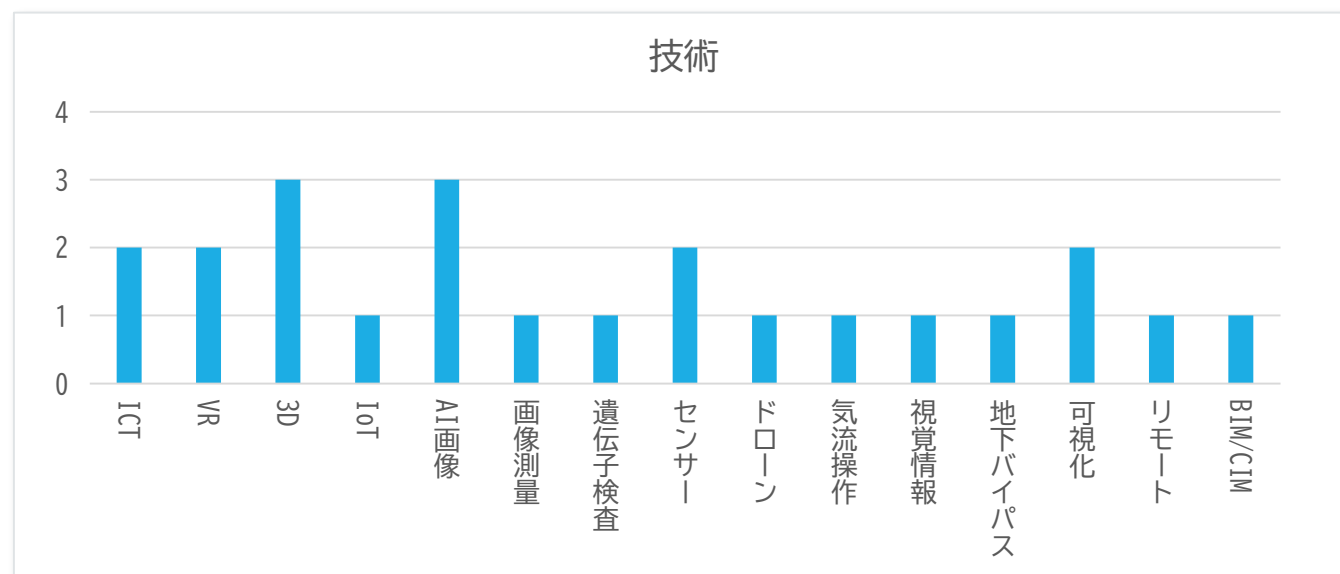
各チームが選んだインフラの対象は「橋梁」が最も多く、企業から課題提供された「下水道」「トンネル」「空港」を選んだチームも6チームありました。

インフラ設備以外のコンクリートや埋設管、現場道具などを対象としたチームも見られました。



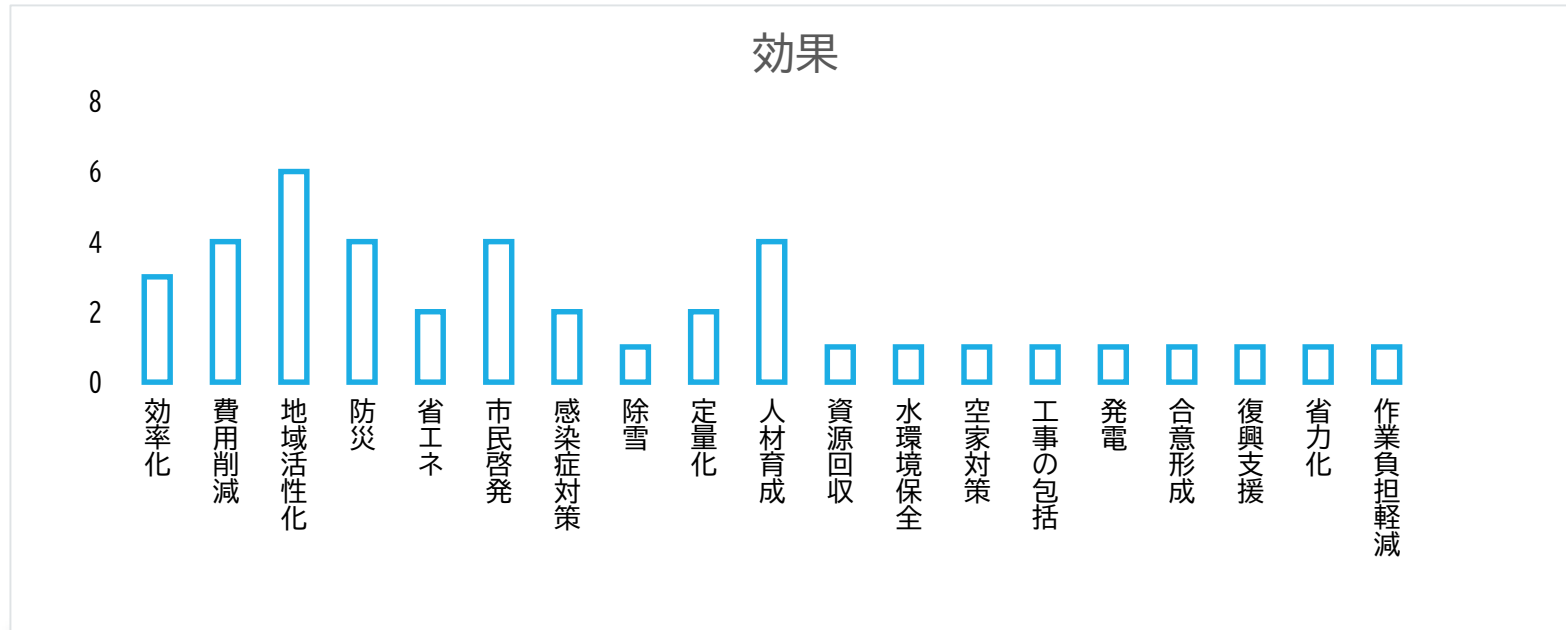
「協働促進部門」を選んだチームでは、アイデアをメインとした内容が多いため、チーム数と技術の数は同数ではありません。

また図に挙げた技術を組み合わせた提案も見られました。



## Chapter01 2020年のインフラテクコンを振り返る

各チームが狙った効果は多岐にわたっていました。



企業からの課題は下記の3テーマ、6校が応募しました。

- ◆ 下水道広報プラットフォーム・フソウ・NJS・石垣・月島テクノメンテサービス・日水コン  
「第3世代の下水道を描け!」
- ◆ 奥村組  
「トンネル現場を対象に、既存のVRソフト、映像撮影ソフトなどを用いて臨場感ある現場見学（疑似体験）に対応するシステムの提案を求める」
- ◆ 南紀白浜エアポート  
「地方空港の未来を一緒に創りませんか!」

## Chapter01 2020年のインフラテクコン 評価されたポイント

審査委員が評価したポイントを分類すると下記ようになります。

現場感覚、現場へのヒアリング実施、安全性に配慮、安全と生産性向上の両立、常時点検

活動の継続性が期待できる、利用者視点、実現可能性、双方向、有益性、一石多鳥、汎用性、付加価値役割、分担が明確、実現性が高い

実体験による説得力がある、設備改良による導入のしやすさ

オリジナリティ、ストーリー性が高い、工学と考古学の融合、話題性がある、着眼点がユニーク、海外展開、海外展開の可能性を感じた、海外事例をうまく応用、塩害の視点、ニッチだが重要

コンパクトなまちづくりの視点、過疎化対策

課題抽出のためのヒアリング、課題にリアリティがある、検討プロセスが明確、メリットデメリットの抽出

地域の成功体験フィードバック、地域の産業を活用、地域振興、地域コミュニケーション、地域住民との協働、住民インセンティブ、住民アンケート、市民通報、SNS、体験学習

行政等との連携を考えている、既存行政の資産（アプリ）の有効利用、管理者の垣根、合意形成の起爆剤

低コスト、財源にも考慮、インフラで稼ぐ視点、財源の創出、収入減少対策

専門外にも分かりやすい、イメージ図があり分かりやすい、視覚化、デザイン力がある、ゲーム化で取り組みやすい、訴求力、身近なスマホ利用、模擬体験

防災<避難の視点、避難場所活用

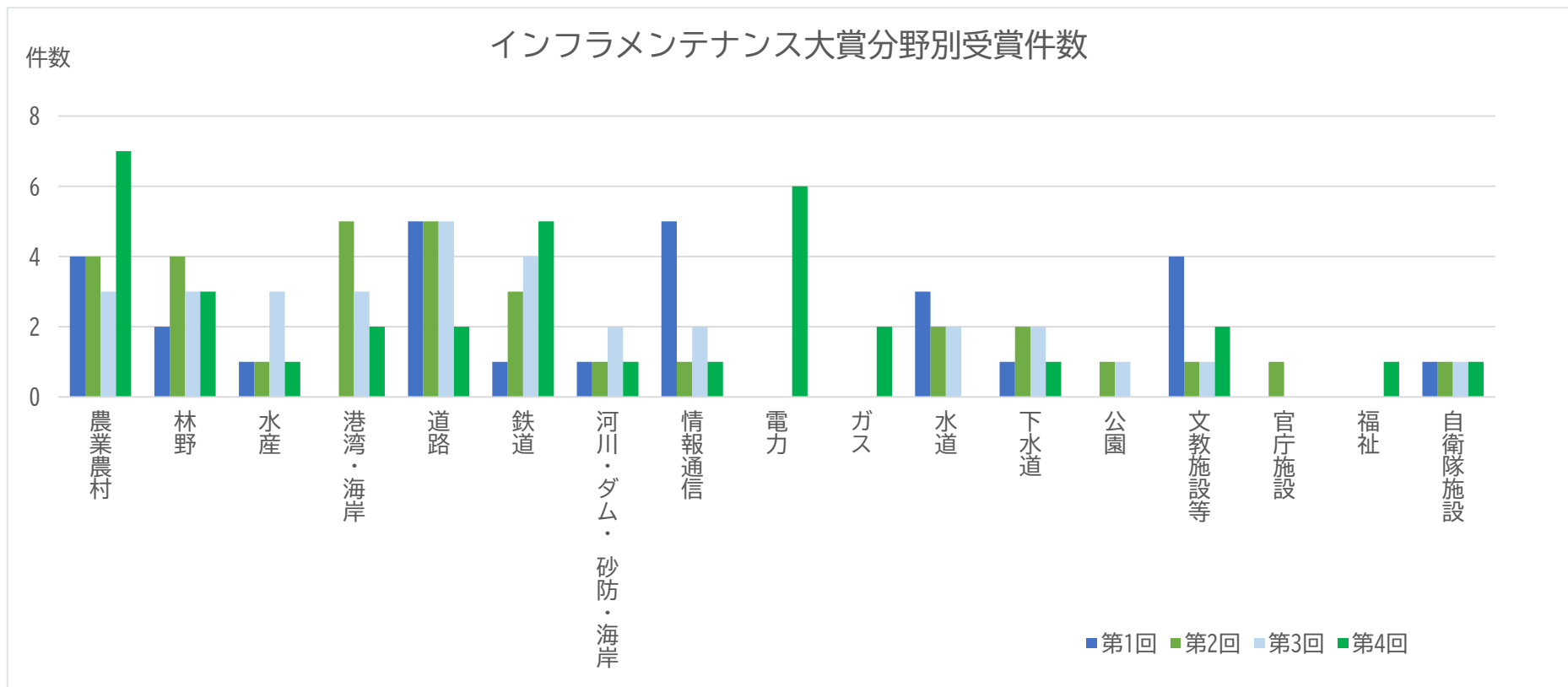
### 審査委員の要望

- ✓ 課題が明確になっているか
- ✓ 課題の着眼、地域へのヒアリングなどプロセスが見える
- ✓ 新しい価値の創出可能性
- ✓ 費用負担、一般財源を使わない仕組みを考えてみる
- ✓ 地域の特徴を打ち出す

## Chapter02 参考：インフラメンテナンス大賞

インフラメンテナンス大賞とは、日本国内のインフラのメンテナンスに係る優れた取組や技術開発を表彰し、ベストプラクティスとして広く紹介することにより、我が国のインフラメンテナンスに関わる事業者、団体、研究者等の取組を促進し、メンテナンス産業の活性化を図るとともに、インフラメンテナンスの理念の普及を図ることを目的に実施されています。

国土交通省、総務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、防衛省が所管する施設について、優れた取組や技術開発に対して、賞を決定しています。



## Chapter02 参考：インフラメンテナンス大賞

インフラメンテナンス大賞を分野・開催年別に集計したものです。  
各概要についてはインフラメンテナンス大賞のホームページにPDF資料が掲載されています。  
応募件名で内容が想像できるタイトルとして工夫されていることが分かります。

分野	開催	応募件名
農業農村	第1回	水田を潤す日本最古の三連水車（1789年 寛政元年）の維持・伝統・環境保全活動
		畑地かんがい用水送水施設（パイプライン）の破損事故発生からの早期復旧への取り組み
		農業水利施設における地域住民参加型「直営施工工事」ポンプ設備の劣化進行を状態監視する新たな診断システム
	第2回	農業者と漁業者との連携によるため池の保全
		水中ポンプの水冷装置に詰まったゴミや泥を完全かつ容易に除去する工夫
		地元農業高校の高校生と連携した農業用水路の保全活動
	第3回	地域住民や地元企業が参画するアドプト活動による農業用水路等の保全管理
		手造り公共事業
		農業水利施設の長寿命化を推進するための「アセットマネジメントセンター」の取組
	第4回	パイプライン内面バンド工法「サンタックINジョイント」による既設管きよの長寿命化
		可搬式水門開閉装置「すぐれ門」による水門開閉作業の負担軽減
		ICTを活用した曲面形状のコンクリート構造物（固定堰）の改修
施設監視システムのウェブ化による管理省力化にかかる効果検証		
第4回	地域総参加による「源兵衛川」の再生・管理システムの構築	
	炭素繊維を用いた農業用水路無筋コンクリートトンネルに最適化した補強法の開発	
	持続可能性のある世界かんがい施設遺産「幸野溝」の維持管理の取組み	
第4回	先人達の多大な苦勞により確保された農業用水の恩恵を未来に引き継ぐ活動	

分野	開催	応募件名
林野	第1回	東日本大震災復興支援「海岸林再生プロジェクト10ヵ年計画」
		魚道データベースの構築と魚道清掃ボランティア活動
	第2回	林道白山線における冬季閉鎖期間の維持管理方法における工夫
		地域で支える「ふれあい林道サポート事業」
		メンテナンスフリーでシカ食害等から林道 緑化法面を守る簡易木製品工法
	第3回	地域活動による治山施設の維持管理と森の強靱化
		お遍路さんに配慮した、林道焼山寺名ヶ平線におけるおもてなし（維持管理）活動
		森林保全ボランティア「JX中条の森づくり活動」
第4回	木材を活用した治山工法「階段式木工沈床」の開発	
	官民共同による海岸林の維持造成	
水産	第1回	漁港点検支援ロボット「視る・診る」による安心で効率的な橋梁点検
		360°カメラによる集水井内点検診断手法
	第2回	「漁港施設点検システム」の構築と活用
		「プレキャストコンクリート製残置型枠工法」による漁港施設の長寿命化対策
	第3回	漁港の砂堆積と砂浜侵食を同時に保全するジェットポンプ式サンドバイパスシステム
		西の浜はゴミ箱じゃない！～良好な海浜・海岸を守るための活動
	第4回	漁協自らによりPB係留施設の整備・運営をし、漁港の水域施設の機能を支える取組
		漁港情報クラウドシステム
港湾・海岸	第2回	明治期に建造された鋼製灯台への長期耐久性防食仕様の適用
		無線LANポートを用いた港湾構造物の点検診断システム
		港湾荷役機械の劣化故障の減少のための数値管理手法
	第3回	小名浜マリブリッジ『点検マニュアル』の策定と地域技術者との連携体制構築 ～使い始める前に考える～
		深梁工法 一杭連結による簡便な棧橋補強
		吸い出し・陥没リスク抑制と港湾構造物の長寿命化に向けたケーソン目地透過波低減法
	第4回	国際バルク戦略港湾における官民共同による効率的な維持管理の取組
		水中3Dスキャナーを活用した水中可視化技術
第4回	仙台塩釜港西心頭棧橋・観光棧橋災害復旧事業	
第4回	棧橋上部工点検用ロボットと診断支援システムの開発	

Chapter02 参考：インフラメンテナンス大賞

分野	開催	応募件名
道路	第1回	G I Sと三次元点群データを活用した道路・構造物維持管理支援システムの開発
		しゅうニャン橋守隊（CATS-B）による猫の手メンテナンス活動
		青森県におけるトータルマネジメントシステムによる橋梁維持管理
		道路橋及びコンクリート構造物の点検・診断等アドバイザー制度
	第2回	地元インフラを地元で守り次世代へと継承する建設技術者育成活動
		みんなで守ろう。「橋のセルフメンテナンスふくしまモデル」の構築と実践
		植物の特性を利用した防草技術（防草ブロック・エレファンドレン）
		さびの「診断」と反応性塗料の「処方」による鉄鋼インフラの長寿命化技術の開発
	第3回	Dimplef
		画像解析を用いたコンクリート構造物のひび割れ点検技術の開発
		中標津町「明日に架ける橋」プロジェクトで地域の橋を総点検！
		橋梁補修DIY（市職員が自ら行う橋梁補修）
	第4回	プロカメラマン撮影のインフラメンテナンス現場写真による広報活動
		テールアルメFS（フェイルセーフ機能付テールアルメ）
		汎用機材およびAI診断モデルによる舗装損傷診断システムの開発と実用化
		七尾市におけるAI（人工知能）を活用した小規模橋梁点検の実証実験
		高速道路のトンネルにおける時速100km走行での覆工コンクリート高解像度変状検出手法

分野	開催	応募件名
河川 ダム 砂防 海岸	第1回	維持管理性を向上させた河川排水用新形立軸ポンプ（楽々点検ポンプ）の技術開発
	第2回	点検用窓「GENSO」を用いたポンプ診断技術
	第3回	合成開口レーダ衛星によるインフラ変位モニタリング 堤防等河川管理施設の点検、評価等に関する技術者の育成
鉄道	第1回	東海道新幹線土木構造物の大規模改修による長寿命化 営業車に搭載可能な軌道検測装置の開発と実用化
	第2回	山陽新幹線コンクリート構造物の実証的な維持管理の取り組み
		土木構造物の状態監視を低コスト・省メンテナンスで実施可能な計測装置の開発
	第3回	保線におけるIoT技術の実用化とメンテナンスへの応用 車上受信データおよび地上電界強度データ解析によるLCX予防保全手法の確立
		地下鉄トンネルにおける覆工コンクリートのはく離浮き抽出システムの構築
		レール交換システム（REXS）の開発
	第4回	トンネル検査の高精度化のこれまでの取り組みと新型トンネル表面覆工撮影車の開発
		機械学習を用いたポイント装置転換異常解析手法の実用化
		トンネル覆工コンクリート剥落防止のためのFRP内巻工の開発 保守労力低減と持続性を両立した「新しい鉄道林」への転換 鉄道沿線斜面監視のためのIoTセンサの整備
情報通信	第1回	屋外設備データベースのメンテナンスを抜本的に効率化する計測・管理技術の開発
		全国各地へ面的に広がる日本の通信インフラの保守、機能継続
		通信用鉄塔設備劣化度判定の簡易化・定量化の実現と点検業務効率化の推進
		元位置工具による共架柱の更改コストの削減について タブレット端末を使用したオンエア監視装置の開発
	第2回	メタルケーブル設備管理手法確立および計画的設備補修による保全稼働削減
	第3回	電柱点検の効率化に向けた構造劣化判定技術の実用化
	第4回	電源断ONUの識別技術～反射減衰量の違いによる末端環境の識別～
		屋外設備における荷重可視化技術の実用化



Chapter02 参考：インフラメンテナンス大賞

分野	開催	応募件名	
電力	第4回	設備情報を用いた効率的な更新計画の策定	
		AIを活用した送電鉄塔の腐食劣化度診断システム開発・運用	
		パネルの半導体特性を活用した、太陽光発電設備のメンテナンス技術	
		コンクリート柱の鉄筋破断診断装置の開発、実用化 送電鉄塔の保守から生まれた小土木（KODOBOKU）技術	
ガス	第4回	レーザーを用いた遠隔からのガス漏えい検査技術 化学会社各社の設備データ共有化とそれを基にした保温材下腐食の発生予測モデル開発	
水道	第1回	既設経年管を再利用したステンレス・フレキ管による水道管路の更新・耐震化の新工法	
		漏水防止計画作業 伸縮可とう管の変位状況を簡単に検知できる専用の計測装置で、管路の安全管理に貢献	
	第2回	IOTを活用したオープン型遠隔監視システム構築による広域的水道施設の運転維持管理 不断水で設置可能な継手部補強金具による既設管の地震対策	
		第3回	時間積分式漏水発見器による効率的な漏水発見手法（スクリーニング工法） アイスピグ管内洗浄工法（水で管内を洗浄する技術）
	下水道	第1回	「下水道管のビッグデータ」を活用したメンテナンス
		第2回	下水道管路等の閉鎖性空間点検調査用ドローンに係る開発 ヒートライナー工法（小口径下水道管路を補修しながら熱を利用する技術）
第3回		下水道圧送管路における硫酸腐食箇所の効率的な調査技術 バイオマス資源利活用施設整備・運営事業	
第4回		下水道管内調査のライブ映像公開による下水道の見える化と地域住民との交流	
公園	第2回	復興事業により整備された公園を官民協働で維持管理する持続可能な仕組みの構築	
	第3回	大都市近郊の里地里山文化を保全・継承する国営明石海峡公園の創出・維持管理	

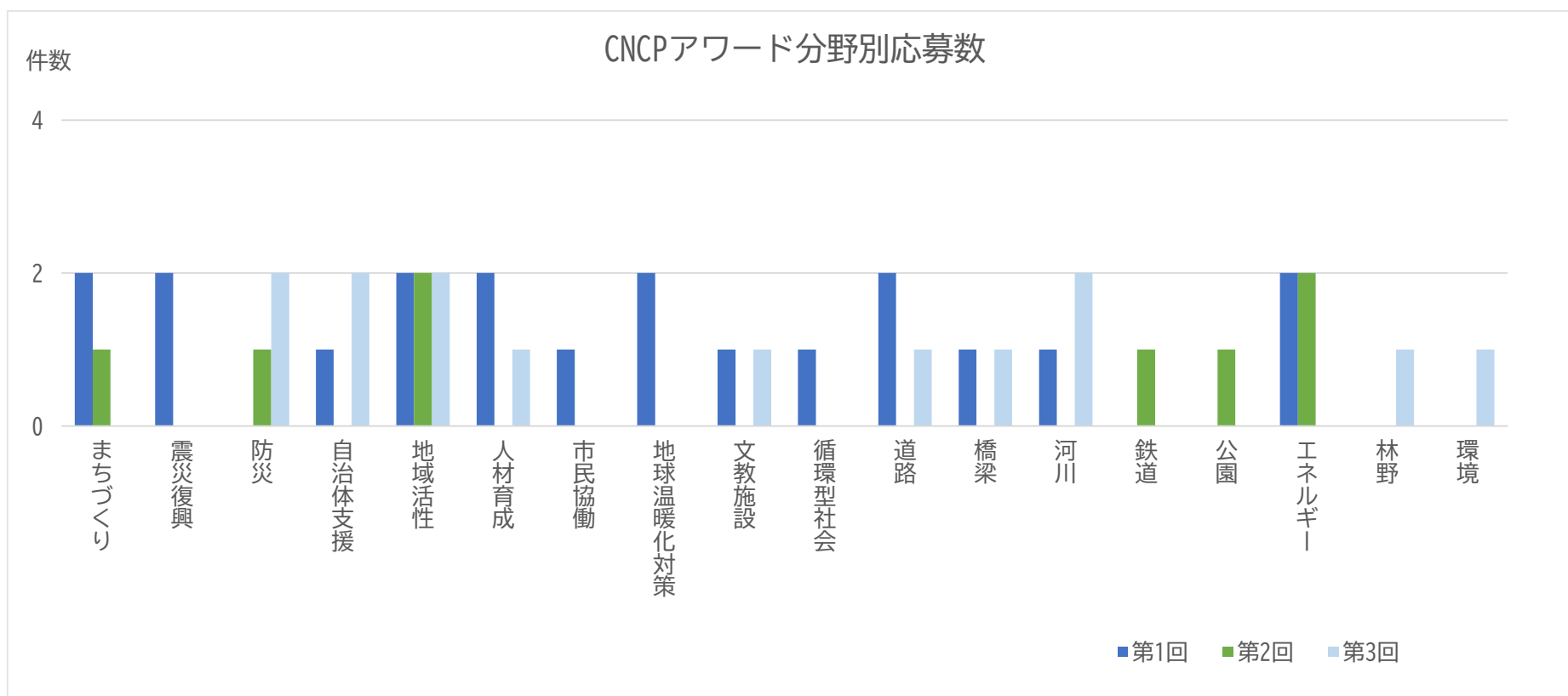
分野	開催	応募件名
電力	第4回	設備情報を用いた効率的な更新計画の策定
		AIを活用した送電鉄塔の腐食劣化度診断システム開発・運用
文教施設等	第1回	大学施設の創造的再生に向けた教職協働によるキャンパスマネジメント
		健全なインフラメンテナンスをリードする技術者の育成事業（ME 養成及び道守養成）
		老朽化した中学校屋内運動場の長寿命化を図り活用した取組 橋本市立高野口小学校の木造校舎の改修
	第2回	名古屋市学校施設リフレッシュプランに基づく施設の長寿命化への取り組み
	第3回	大学研修施設（大規模実橋モデル）を活用した『臨床型』の橋梁維持管理技術者育成
	第4回	南山大学「レーモンド・リノベーション・プロジェクト」によるキャンパスの改修
		フラッシングコアによる副側溝工法透水不良を起こさない芝生・植栽の排水システム
	官庁施設	第2回
福祉	第4回	SPT配管診断による建築物の配管改修・更新工事のコスト削減
自衛隊施設	第1回	海上自衛隊 第1術科学校『大講堂』平成の大改修
	第2回	既設地中式タンクを利用した、地下式燃料タンクの築造
	第3回	厳しい自然環境に適したコンポルト型屋外燃料タンクの設置について
	第4回	RAKUYU-Z工法（不断水水替工法）

## Chapter03 参考：CNCPアワード

CNCPアワードとは、NPO法人 シビルNPO連携プラットフォームでは、シビル分野におけるソーシャルビジネスの普及を進める目的で、社会的課題の解決を図る優れた事業を顕在化して称賛し、広く周知させるため実施されました。

応募にあたっては、下記3つの要素をすべて満たしていることが条件となっていました。

- ①社会的課題解決に取り組む事業または活動であること
- ②シビル分野における革新的な事業であること
- ③ビジネスの形態で3年以上継続的に活動していること



出典：シビルNPO連携プラットフォームHPより集計

Chapter03 参考：CNCアワード

分野	開催	応募件名
まちづくり	第1回	まちづくり会社による「共感まちづくり」の実現 江戸時代の共助のまちづくり再生構想
	第2回	体験・体感型のパーソナルモビリティツアー
震災復興	第1回	東日本大震災宮城県松島市あおい地区における防災集団 移転等の支援活動
		東日本大震災における津波がれき処理に関する提案と課題の 伝承
防災	第2回	既存貯水槽の耐震性向上のための制振装置の開発
	第3回	非常食循環システム付き宅配ロッカー 一般社団法人減築コンサルタント協会の設立
自治体支援	第1回	地方自治体のインフラの維持管理を支援する責任事業組 合
	第3回	市町村公共施設工事技術調査（工事技術監査） 地方創生：PDB方式によるインフラメンテナンスの推 進
地域活性	第1回	風土工学の普及啓発
		公民連携による地域再生プロジェクト
	第2回	リノベーションによる「子育てママのコミュニティ」づ くり
		空き店舗対策と連動した「まちなか起業スクール」
	第3回	地域の廃ビル・空きビルを活用したアグリビジネスで地 域経済の活性化
	新しい水戸を育むインキュベーション・スペース「MEET the MITO」（ミートザミート）	
人材育成	第1回	建設業の活性化と技術の伝承を目的とした人材育成・継 続学習並びに新技術開発研究
		工事監査（建築医術調査業務）による技術者教育
	第3回	文系等の異分野出身者に対する土木技術者への再教育
市民協働	第1回	一般市民を相手に歩道や公園や緑道等を活用する観光ラ ンニングの開催事業

分野	開催	応募件名
地球温暖化 対策	第1回	軽量のウッドプラスチック製養生用敷板の普及による環境 負荷低減事業
		南太平洋諸国での地球温暖化による海面上昇対策事業の企 画提案
文教施設	第1回	校園庭の芝生化支援事業
	第3回	KUMAGAI STAR PROJECT（通称：クマスタ）
循環型社会	第1回	「生ごみを宝に」職資源の循環型社会を目指して
道路	第1回	土のう工法の普及活動を通じた未舗装道路整備のインク ルーシブビジネス化
		民間事業者による有料道路白糸ハイランドウェイの道路運 営事業
	第3回	NPO法人電線のない街づくり支援ネットワーク
橋梁	第1回	最新型橋梁点検車を加えた、新たなインフラ点検業務の確 立
	第3回	みんなで守る。「橋のセルフメンテナンスふくしまモデ ル」の構築と実践
河川	第1回	中川を活かしたまちづくり
	第3回	お江戸日本橋舟めぐり 多セクターが連携 荒川クリーンイベントフォーラムで河川・海洋ゴミ削減
鉄道	第2回	インドアマップサービス向け駅構内案内地図データ整備・ 維持管理
公園	第2回	新市民会館周辺公園化構想
エネルギー	第1回	太陽熱利用による地球温暖化防止への取り組み 太陽熱温水器で被災地支援
	第2回	農業用水を活用した小水力発電事業の建設・運営 Power of the Region ～小水力発電の地産地消地活を通じ た地域活性化事業～
林野	第3回	地域材の活用を通じたインフラ整備・地域活性化事業
環境	第3回	「住環境リスク評価」と「住環境リスク情報プラット フォーム」の構築

下記は令和3年の技術士二次試験（建設部門）の試験問題です。  
試験は論文形式ですが、基本的な技術分野の専門知識だけでなく、複合的な問題を考える力を試  
されます。選んだテーマを当てはめて考えてみましょう。

**9 建設部門【必須科目Ⅰ】**

I 次の2問題（I-1，I-2）のうち1問題を選び解答せよ。（答案用紙に解答問題番号  
を明記し，答案用紙3枚を用いてまとめよ。）

I-1 我が国の総人口は，戦後増加を続けていたが，2010年頃をピークに減少に転じ，  
国立社会保障・人口問題研究所の将来推計（出生中位・死亡中位推計）によると，2065  
年には8,808万人に減少することが予測されている。私たちの暮らしと経済を支えるイ  
ンフラ整備の担い手であり，地域の安全・安心を支える地域の守り手でもある建設産業に  
おいても，課題の1つとしてその担い手確保が挙げられる。

- (1) それぞれの地域において，地域の中小建設業が今後もその使命を果たすべく担い手を  
確保していく上で，技術者としての立場で多面的な観点から課題を抽出し，その内容を  
観点とともに示せ。
- (2) 抽出した課題のうち最も重要と考える課題を1つ挙げ，その課題に対する複数の解決  
策を示せ。
- (3) すべての解決策を実行した上で生じる波及効果と，新たな懸案事項への対応策を示せ。
- (4) 上記事項を業務として遂行するに当たり，技術者としての倫理，社会の持続性の観点  
から必要となる要件・留意点を述べよ。

深堀の  
ヒント



社会的な課題は複数の要  
因から成る



現状の問題点の構造は



数値化してみる



時間と環境による課題や  
解決策が変化は



複数の専門技術で解決？



隠れたリスクはないか



トレードオフを考える



ステークホルダーを列挙



MECEでモレなく、ダブリ  
なく、全体を俯瞰

## Chapter05 白書から課題を見つける

白書名	構成・要旨	キーワード
国土交通白書 (2021)	<p>現在直面する危機（新型コロナウイルス感染症、災害の激甚化・頻発化）</p> <p>→危機による変化の課題の顕在化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の存続基盤の維持困難化</li> <li>・災害リスクの増大や老朽化インフラの増加</li> <li>・多様化を支える社会への変革の遅れ</li> <li>・DXの遅れと成長の停滞</li> <li>・地球温暖化の進行</li> </ul>	<p>人流減少、インバウンドの消失、公共交通経営、地域の生活サービス維持、災害リスクの高い地域への人口・機能の集中、パリ協定目標とのギャップ、災害ハザードエリア、グリーンリカバリー、流域治水、物流デジタル化、MaaS、次世代モビリティ、グリーンインフラ、テレワーク、DXによる生産性の向上、無人化施工、LCCM住宅、ZEH、ZEB</p>
国土交通白書 (2020)	<p>国土交通行政が向き合うべき課題と方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害から身を守る</li> <li>・持続可能なインフラメンテナンスサイクルの実現</li> <li>・地域における移動手段の確保</li> <li>・海外からの活力取り込み</li> <li>・新技術の活用</li> </ul>	<p>TEC-FORCE、i-Construction、観光立国、インフラシステム輸出、自動運転、ドローン、防災・減災が主流となる社会、予防保全、5G、コンパクトシティ、ワーケーション、巨大地震、コンパクト+ネットワーク</p>
防災白書 (2021)	<p>特集 新型コロナウイルス感染症の影響下における災害対策</p> <p>第1部 我が国の災害対策の取組の状況等</p> <p>第2部 令和元年度において防災に関してとった措置の概況</p> <p>第3部 令和3年度の防災に関する計画</p>	<p>感染状況を踏まえた避難所、住民の避難行動対策、「防災×テクノロジー」タスクフォース、「気候変動×防災」、自助・共助による事前防災、原子力災害、適応復興、予防保全型インフラメンテナンス、災害関連情報の高度化</p>
環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書 (2021)	<p>第1章 経済社会のリデザイン（再設計）と3つの移行</p> <p>第2章 脱炭素社会・循環経済・分散型社会への3つの移行</p> <p>第3章 地域や私たちが始める持続可能な社会づくり</p> <p>第4章 東日本大震災から10年を迎えた被災地の復興と環境再生の取組</p>	<p>生物多様性とパンデミック、GB05、生物多様性条約COP15、廃棄物排出量、気候非常事態宣言、2050年カーボンニュートラル、カーボンプライシング、インパクトファイナンス、ローカルSDGs、サーキュラーエコノミー、地域内エネルギー</p>
環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書 (2020)	<p>第1章 気候変動問題をはじめとした地球環境の危機</p> <p>第2章 政府・自治体・企業等による社会変革に向けた取組</p> <p>第3章 一人一人から始まる社会変革に向けた取組</p> <p>第4章 東日本大震災からの復興と環境再生の取組</p> <p>第5章 新型コロナウイルス感染症に対する環境行政の対応</p>	<p>地域循環共生圏、気候危機、ゼロカーボン自治体、GDPとGHGのデカップリング、海洋プラスチックごみ汚染、SATOYAMAイニシアティブ、分散型エネルギー、気候変動×デジタル、ESG金融、TCFD、SBT、RE100、行動変容</p>

その一 まずはブレない！

見る人にストレスを感じさせないためにも、ブレ防止に歩きながら撮らないは当たり前。さらにカメラマンは絶対に笑ってはいけない。我慢我慢。

その二 アングルを変えることで面白い画になる

同じ方向からだけでは飽きられる。ローアングル、アイレベル、ハイアングルと構成を工夫してみよう。

その三 水平&三分割を意識する

スマホのカメラ機能のグリッド線を使うと縦横2本ずつ画面に線が表示されるので、水平のバランスが取りやすくなる。画面の下1/3や右1/3に被写体を寄せることでも、安定した構図になる。

その四 録画初めと終わりに余裕を持たせる

3秒くらい前から録画を始めて、3秒後に止める。ボタンを押したときに生じるブレや話している音声を編集しやすくなる。

その五 スマホの機能を有効活用

- タイムラプス:数秒に1コマずつ撮影したものを繋げて再生、時間経過による変化を面白く見せられる。
- ループ:撮影した3秒を繰り返し再生、データを重くせず、継続した動画にできる。
- 露出補正:明るさを自在に変化、明るくすることも暗めにもできる。
- 長時間露光:写真であれば動いているものをリアルに見せたり(水の流れなど)、動いているものを消す(歩行者など)ことが可能。